

令和3年度学校関係者評価票

学校名：歯学部歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検・評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

令和3年度 専門学校自己点検・評価項目	令和3年度 専門学校による自己点検・評価結果		学校関係者評価				取組 評価
	取組状況・評価に対する意見	取組 評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	
評価項目① 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	全学年においてグループ学習や課題学習を多く取り入れ、能動的な学びの中で根拠に基づく実践力が定着できるよう努めている。さらに、学生からの質問に応じるオフィスアワーについては、各科目のシラバスに記載し学生が質問などができる環境を整えている。また専任教員は学生からの様々な相談や自主練習などを常時、受け付けて学生の学修を支援している。	A	学年、時期に応じた学習を効率よく行えるよう工夫がなされている。コロナ禍においても、PCを活用し丁寧な対応がとられている。基礎学習担当先生の医局が近くに配置され、質問、相談しやすい環境が整っている。学校施設の整備が整いつつあり良い学習環境が構築されている。 規程に基づくカリキュラムが生まれ、丁寧にわかりやすくシラバスに記載されている。グループ学習や課題学習を取り入れることで情報を共有し、より深く学習内容を習得できる。コロナ禍において学生同士の相互実習機会が減る中、教員が積極的に自主練習を受け付けており、学生の学ぶ機会を作っている。	学生が質問しやすいよう、学生が気軽に訪問できる場所に医局がある。 臨床実習において最新の設備が整っている。 シラバスの内容がわかりやすく、学生が活用しやすくなっている。	PCでの授業時、様々な事情から学生の顔を見て行えていない。反応を見ながらできれば理想的と感じる。 学生の学生意欲向上の一環として、介護関係やケアマネージャーなど、歯科衛生士以外の資格を取得できる制度があると良い。	コロナ禍において、平常時のように進めることはなかなか難しいと思われる。そのような中、色々と工夫がされている。	A
評価項目② 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	ほとんどの授業科目において実務経験のある教員が、講義・実習を担当している。また、学生による授業評価アンケートを実施し、教員会やIR委員会にてアンケート結果を確認し、授業の内容及び方法の改善を図り、効果的な教育につなげている。	A	全ての教員に実務経験がある。また、教員の質の向上の為、様々な活動、講習会等の参加に取り組み、学生へのアンケートを行い、成果につなげている。 いずれ、ほとんどの学生は歯科臨床現場に巣立っていくとおもわれるが患者本位の教育に取り組んでいると評価する。 教員組織は適正に構成されている。講習会や協議会に定期的に参加しており、情報共有や指導力の向上に努めている。収集したアンケートを適切に分析し、教員の意識向上や、授業の内容改善につなげている。	年々改善されている様子が、アンケートの結果にて伺える。 臨床実習で教員学生のチームワークが良くとれている。 教員が一人一人高い意識を持っており、知識や技術の向上のため努力している。講習会などに積極的に参加し、学生教育に還元されている。	学生からの評価が低い授業は、内容を見直し、改善していただきたい。	アンケート結果に対する対応、先生方の苦勞、努力が感じ取れる。	A
評価項目③ 学生生活の充実を図るために、学生の心身の健康等における支援対策は講じられているか。	クラス担任を中心とする専門学校教職員の他、保健室および学生支援室等、学生が抱えている様々な問題に対する相談体制を構築している。年度初めに健康調査(学生生活適応チェック)を実施し、保健室では常駐の看護師や学校医(週一日)による相談や対応が行われ隣接する日本大学病院等と連携を図っている。また日本大学本部の学生支援センターで相談できる体制もとられている。	B	学部と共に、臨床心理士の資格をもったカウンセラーが週4日対応している。日本大学本部においても、相談できる環境がある。 歯学部支援窓口を設けており、様々な支援カウンセリングを随時行っており、良い環境にあると評価する。 専門学校職員と保健室や学生支援室と連携して、学生一人一人に手厚い相談体制がとられている。	学部内でも、外でも相談が受けられ、プライバシーも守られるのは学生も安心できると思う。学生についての相談を家族も受けられることは、非常に親切に感じる。 インストラクターの先生方は学生に対し丁寧に優しく指導している。 歯学部附属の専門学校であることの強みを活かし、歯学部学生と同様なサポートを受けることができとても充実している。	実際どのくらいの学生が利用しているか、敷居の高いものになっていないか。匿名での利用者の声も聞いてみたい。 専門学校の学生が歯学部本部の学生支援センターに相談するのはもしかするとハードルが高いかもしれない。専門学校でもしっかりと学生の支援ができる機関があると良いと思う。	特になし	A
評価項目④ 在校生ならびに卒業生へ、歯科衛生に関する様々な進路情報の提供、紹介に関する指導体制は整備されているか。	第3学年の歯科衛生士論にて、様々な分野で活躍する卒業生を講師として招き、各分野で求められる歯科衛生像や歯科衛生士業務などの情報を提供している。さらに、施設見学時や面接時などに必要なコミュニケーションスキルについても講師を招いて講義・実習することで実践力が身につけるようにしている。	A	歯科衛生士論の中で、就職に直結する授業がされている。外部のOGの声を聞いたり、自由討論会、質問などが行われている。HPより求人閲覧ができ、校長先生はじめ教員が100%の就職を目指し、相談にのっている。 歯学部同窓会とのさらなる密な繋がりを維持し歯科を取り巻く環境の情報を分析し臨機応変に対処していただきたい。 卒業生を講師として招き情報を提供することで、実際の現場を感じることができる。自分の目指す歯科衛生士像に向かって、就職への意識を高め、期待を持つことができる。施設見学や面接事に必要なスキルを身につけることができ、自信を持って就職活動を行うことができる。	OGの生の声が聞ける。HPでいつでも求人確認ができる。 学生相談窓口のより充実した継続。 卒業生を招き情報を提供することは、学生にとって身近な存在であるため、より共感できると思う。さまざまな分野で活躍する歯科衛生士を見ることで、自分の理想を見つけ、積極的に就職活動に望めると思われる。	同窓会組織の縦横情報連絡の更なる充実をお願いしたい。	特になし	A

令和3年度学校関係者評価票

学校名：歯学部歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検・評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

令和3年度 専門学校自己点検・評価項目	令和3年度 専門学校による自己点検・評価結果		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組 評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目⑤ 【重点項目】 学生の学修定着度を随時確認できる取り組みを行い、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	従来の定期試験に加え、各科目にて平常試験や理解度確認テストの実施、レポート提出を行うことで学生の学習成果を測定している。さらに各クラスの担任は、各科目の学習成果ならびに出欠席状況を把握し、必要に応じて教科担当者との話し合いや学生との個人面談を実施している。また、年に1回、講義担当者会議や臨床実習担当者会議を行い、学生への指導の指針や注意点、成績評価方法に関する情報を共有し学習成果の適切な評価に努めている。さらに今年度は教育支援システム（ESS）を導入し、歯科衛生士国家試験に向けて知識の習得状況を日毎に確認しながら、合格率100%を継続できるよう努める。	A	日頃の試験や出欠、態度や面談、さらに学生へのアンケート等に基づき、状況を把握。また、動向を調査した上で、ESSを導入し、過去問への取り組み、個人に合わせた学習環境を整え、国家試験合格100%の継続を目指している。 シラバスに基づき、教職員の努力は評価に値する。 定期試験や理解度確認テストを行うことで、学生一人一人の学力を把握し、必要に応じて個人面談を行なっている。他の歯科生士教育学校に先駆け、教育支援システムを導入したことで、今年度は国家試験の合格率が100%であったことは非常に評価できる。	様々な活用が可能なESSの導入が期待できる。 ESSをより充実していただきたい。 学生一人一人の学力を把握、分析することで、全体的な学力向上に努めている。コロナ禍で、より確実な国家試験対策を行うことが難しい中、教育支援システムを導入することで、学生の学習意識を低下させることなく、確実に学力をつけることができた。	オンライン授業の難しいところではあるが、より確実に授業の参加を促し、教員が把握できる状況を作ることが学力の二分化を避けるため必要だと思われる。	学生によって、学習の差が出てしまう中で、サポートが必要と思われる学生に教員がしっかり支援をしている成果が国家試験合格100%を導いていると感じた。 最終的には、国試合格を果たさなければ意味がないので、学生個々の意識高揚促進に努力していただきたい。	A